

YASUGI SHINKA BOOK

第3次安来市総合計画 2026-2035

第3期安来市創生総合戦略
| 2026-2030 |

1 安来市創生総合戦略の概要

策定の趣旨とこれまでの経緯

「安来市創生総合戦略」（以下「総合戦略」といいます。）とは、平成26年に制定された「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、安来市が人口減少に立ち向かうために定めるこれからの行動指針で、将来の人口動向を見据え、直近5年間に取り組むべきことを整理したものです。

我が国における急速な少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくために、国を挙げた地方創生の取組が重要となっています。

安来市においては、平成27年に第1期総合戦略を、令和2年に第2期総合戦略を策定（令和6年に改訂）し、市長を本部長とする「安来市人口対策本部」により、総合戦略の基本目標に基づく取組を進めるとともに、産官学金労言等の有識者により構成する「安来市総合計画・総合戦略推進会議」により、戦略の効果等の検証を行うなど、人口減少対策を進めてきたところです。これまでの取組により、企業誘致による雇用の創出や移住・定住の促進などで一定の成果が見られた一方で、依然として若者世代を中心とした転出超過や出生数の減少傾向は続いており、人口減少の克服には至っていないのが現状です。

第1期 戦略	基本目標1	若い世代の結婚・出産・子育てを“支援”する
	基本目標2	産業振興により、若者に魅力ある雇用の場を創出する
	基本目標3	住環境を向上し、市民の定住意識を高める
	基本目標4	多種多様で魅力的な“地域”を形成する

第2期 戦略	基本目標1	結婚・出産・子育てを支援し、女性の定着を図る
	基本目標2	産業振興により、魅力ある雇用の場を創出する
	基本目標3	住環境を向上し、市民の定住意識を高める
	基本目標4	多種多様で魅力的な地域を形成する
	広域連携	広域連携による魅力ある圏域づくりをめざす

第2期総合戦略の策定から5年が経過し、この間、人口減少・少子高齢化、地球温暖化の進行と自然災害の激甚化・頻発化、新型コロナウイルス感染症の流行、ライフスタイルや価値観の多様化、デジタル化の加速、国際情勢の変化など、安来市を取り巻く社会情勢は大きく変化しています。特に、東京圏への人口の一極集中は依然として是正されず、地方の活力低下が大きな課題となっています。

こうした状況を踏まえ、国はこれまでの地方創生の成果を継承・発展させつつ、AIやデジタルなどの新技術の活用や、若者・女性にも選ばれる地域づくりといった新たな視点を加えた「地方創生2.0基本構想」を打ち出しました。また、デジタルの力を活用して地方の社会課題解決・魅力向上を目指す「デジタル田園都市国家構想」の実現に向けた取組も加速しています。

島根県においては、令和7年3月に「第2期島根創生計画」を策定し、将来像として「人口減少に打ち勝ち、笑顔で暮らせる島根」を掲げています。

地方創生 2.0 の「基本姿勢・視点」

- 人口減少への認識の変化
- 若者や女性にも選ばれる地域
- 人口減少が進行する中でも「稼げる」地方
～新結合による高付加価値型の地方経済（地方イノベーション創生構想）～
- AI・デジタルなどの新技術の徹底活用
- 都市と地方が互いに支え合い、人材の好循環の創出
- 地方創生の好事例の普遍化と、広域での展開を促進

第2期島根創生計画の「3つの柱」と「8つの基本目標」

人口減少に打ち勝つための総合戦略	生活を支えるサービスの充実	安全安心な県土づくり
①活力ある産業をつくる ②結婚・出産・子育ての希望をかなえる ③地域を守り、のびる ④島根を創る人をふやす	⑤健やかな暮らしを支える ⑥心豊かな社会をつくる	⑦暮らしの基盤を支える ⑧安全安心な暮らしを守る

第3期総合戦略においては、第1期、第2期で根付いた地方創生の取組を継続・深化させるとともに、これまでの取組の成果や検証結果、市が抱える人口の課題、そして国や県の方針も踏まえ、次の将来人口目標及び基本目標の達成に向けて、より実効性の高い施策を展開します。

2 安来市創生総合戦略の目標

将来人口目標

総合戦略の取組を推進した成果として、安来市人口ビジョン（令和7年3月見直し）に掲げる目標の達成を目指します。

自然減少抑制の目標

合計特殊出生率について、2045（令和27）年までに人口置換水準の2.07を達成

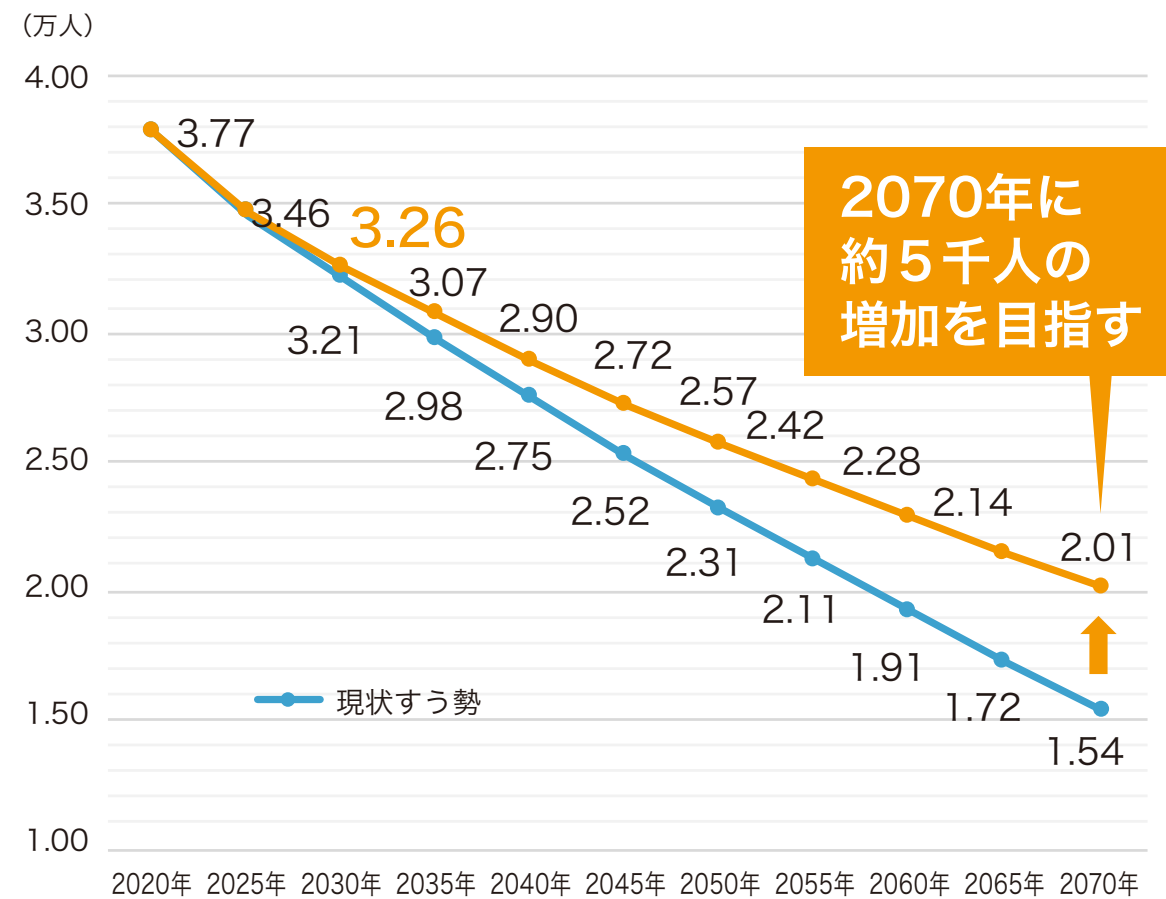
社会減少抑制の目標

2040（令和22）年には社会移動の概ねゼロを達成

総人口

2070（令和52）年において概ね20,100人の人口を維持

安来市人口ビジョンの将来人口目標



大目標と中目標

安来市人口ビジョンにおける将来人口目標を達成するため、第3期総合戦略の計画期間である令和8年度から令和12年度（2030年度）までに達成すべき人口目標とそのための要素を、次のとおり設定します。

大目標

2030年末時点で **人口3.26万人** の維持

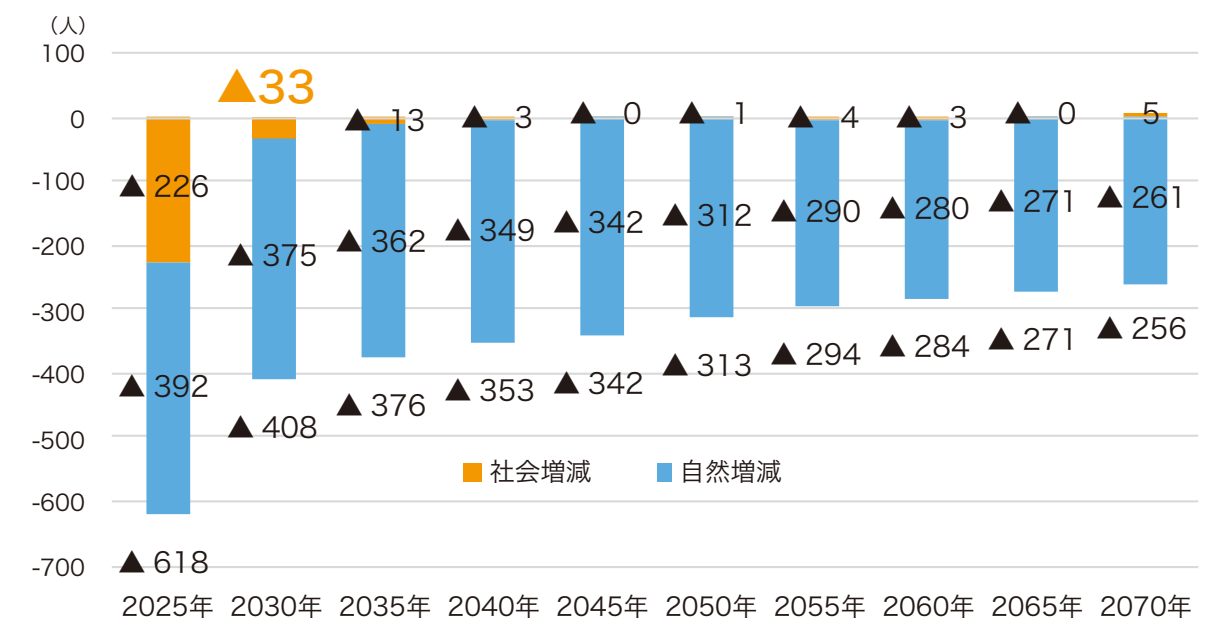
中目標

2030年まで毎年の **出生数202人** の維持
2030年までに **社会増減▲33人** の達成

安来市人口ビジョンの将来人口目標達成のための目標出生数

	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
出生数	203人	202人	207人	212人	201人	185人	169人	161人	160人	158人

安来市人口ビジョンの将来人口目標達成のための
自然増減と社会増減の改善シミュレーション



基本目標と数値目標

基本目標1

若者や女性にも選ばれる安来市をつくる

めざす姿

- 若者が安来市に残りたい、戻りたい、行きたいと思うことができる。市内に魅力的な学び場、働き場があり、若者が安来市で学びたい、働きたいと思うことができる
- 性別にかかわらず、自分の能力や可能性を発揮し、働きたい人がいきいきと働き続けられる

数値目標

・若者(10代、20代)の社会増減数	R6:▲190人	⇒	R12:▲77人
・女性の社会増減数	R6:▲126人	⇒	R12:▲21人
・安来市への愛着度	R6:68.7%	⇒	R12:72.0%

基本目標2

安来市の資源を活用した産業振興を推進する

めざす姿

- 地域資源を活用した新たな産品、サービスが生み出せる
- 新たな起業に挑戦できる環境が整っている

数値目標

・製造品出荷額等	R5:1,742億円	⇒	R12:1,916億円
・市町村別農業産出額(推計)	R5:45億円	⇒	R12:49.5億円

基本目標3

安心して暮らせる安来市をつくる

めざす姿

- 身近な生活必需品の買物に不自由しない
- 日常の医療・介護サービスに不自由しない
- 日常の移動に不自由しない
- 災害時も避難所の生活環境が確立されている
- 人々が地域での暮らしに満足感を持っている

数値目標

・Well-being指標2: 地域の暮らしの満足度(10段階評価平均)	R6:5.6	⇒	R12:6.2
--------------------------------------	--------	---	---------

基本目標4

一人ひとりが活躍できる安来市をつくる

めざす姿

- 一人ひとりが仕事や地域で活躍できる
- 関係人口や交流人口が増え、互いに交流し、助け合える

数値目標

・Well-being指標48:やりたい仕事を見つけやすい(全国偏差値)	R6:18.4	⇒	R12:41.8
・Well-being指標50:新たな事に挑戦・成長するための機会がある(全国偏差値)	R6:19.5	⇒	R12:43.6

基本目標5

AI・デジタルなどの新技術が活用される安来市をつくる

めざす姿

- AI・デジタルなどの新技術が活用され、利便性が高まる

数値目標

・Well-being指標20:行政サービスのデジタル化が進んでいる(全国偏差値)	R6:35.7	⇒	R12:45.0
・Well-being指標21:デジタルサービスを利用しやすい(全国偏差値)	R6:28.8	⇒	R12:41.7

3 基本目標ごとの施策と指標(一覧表)

1 若者や女性にも選ばれる安来市をつくる						
章	節	事業名	指標名	基準年度	現状値	目標値(R12)
2	1	マタニティ応援プロジェクト事業	マタニティ応援プロジェクト事業の妊産婦参加率	R6	86.6%	95.0%
2	2	ふるさと教育推進事業	全国学力・学習状況調査の児童質問紙の回答割合（質問：地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う）【小学生】	R7	76.4%	80.0%
			全国学力・学習状況調査の生徒質問紙の回答割合（質問：地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う）【中学生】	R7	85.2%	85.2%
4	2	つながり創出による市内就職促進事業	市内高校からの市内企業就職率（単年）	R6	42%	42%
			若年層と企業のマッチングイベント等の参加人数（単年）	R7	19人	50人
4	2	高校魅力化推進事業	市内高校生徒の地域貢献意識の肯定的回答割合	R6	67.6%	71.5%
4	2	企業立地雇用促進事業	企業立地奨励金制度交付件数（単年）	R6	1件	2件

2 安来市の資源を活用した産業振興を推進する						
章	節	事業名	指標名	基準年度	現状値	目標値(R12)
4	1	中核的な経営体を目指す自営就農者確保対策事業	中核的経営体（認定新規就農者、認定農業者、定年帰農者）育成数（単年）	R6	2人	2人
4	1	森林環境整備事業	原木生産量（単年）	R6	13,629㎡	20,000㎡
4	2	創業支援事業	市補助事業を活用した新規開店件数（累計）	R6	3件	21件
4	2	産業サポートネットやすぎ事業	産業サポートネットやすぎによる支援件数（単年）	R6	45件	50件
4	3	観光キャンペーン事業	宿泊者数（単年）	R6	29,271人	36,000人
			観光入込客数（単年）	R6	130.2万人	150万人

3 安心して暮らせる安来市をつくる						
章	節	事業名	指標名	基準年度	現状値	目標値(R12)
1	1	医師・薬剤師・看護師等確保対策事業	医学生、薬学生、看護学生等奨学制度を活用して市内医療機関等に勤務する人の数（累計）	R7	19人	29人
1	1	遠隔診療・遠隔相談事業	遠隔診療利用患者数（単年）	R6	21人	70人
1	3	介護人材確保支援事業	介護職員初任者研修の修了者数（単年）	R6	16人	20人
3	1	自主防災組織支援事業	防災士資格取得者数（累計）	R7	72人	87人
5	1	生活交通ネットワーク再編事業	地域内交通の実施地区数	R6	3地区	4地区

4 一人一人が活躍できる安来市をつくる						
章	節	事業名	指標名	基準年度	現状値	目標値(R12)
1	3	高齢者社会活動支援事業	シルバー人材センター会員の就業率（単年）	R6	81.2%	81.2%
7	1	地域づくり支援事業	地域づくり支援事業の支援件数（単年）	R6	40件	52件
7	2	地域おこし協力隊事業	地域おこし協力隊の任期終了後の市内定住者人数（累計）	R6	7人	12人
7	4	多文化共生事業	多文化共生イベントの参加者数（単年）	R6	60人	60人

5 AI・デジタルなどの新技術が活用される安来市をつくる						
章	節	事業名	指標名	基準年度	現状値	目標値(R12)
5	4	だれひとり取り残さない窓口の構築（異動受付支援システム）	転入届の操作に要する平均処理時間	R6	23分/件	15分/件
5	4	AIチャットボット事業	AIチャットボットの応答数（単年）	R6	983件/月	700件/月
5	4	出張行政サービスの実施（マルチタスク車両の活用）	出張行政サービス利用者の満足度（5段階評価平均）	R6	4.4点	4.4点
5	4	オンライン申請の拡充	オンライン申請対応済み手続数	R6	91件	115件
7	5	SNS等活用による情報発信強化	オンライン申請による申請件数（単年）	R6	1,752件	2,950件
			公式SNS登録者数（facebook、X、LINE、Instagram）	R6	5,800件	9,200件